

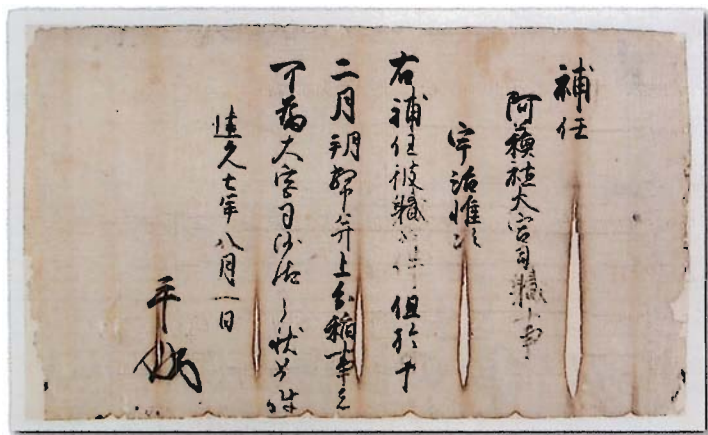
## 阿蘇家文書修復完成記念

# 阿蘇の文化遺産展を終えて

稲葉 継陽

10月22日、熊本県立美術館で開催された「阿蘇の文化遺産展」が、約一ヶ月半の会期を終えた。

会期中の入場者は6,114名、展覧会のために準備した「図録」は800部ちかくを売り上げ、3回開催した連続講演はいずれも盛会であった。



北条時政阿蘇大宮司職補任状

また、10月14日から16日まで本学文学部棟などで開催した「日本古文書学会」の大会には全国の歴史学者や市民が約150名参加し、本展覧会に関連する講演や研究報告も行われ、参加者は16日に展覧会を見学し、大きな反響が得られた。

本学と県立美術館との共同作業で実現したこの展覧会を振り返るとともに、わが国の代表的な中世・近世文書群を管理している熊本大学、附属図書館、そして研究スタッフらが今後とるべき方向性について展望してみよう。

文化財保護法には、重要文化財の修理完了に際しての国民への公開義務が規定されている。

重文指定いらい17年の歳月をかけた『阿蘇家文

書』の修復完成によって、所蔵者の熊本大学には同文書の公開義務が生じたが、私どもはこの機会をひらかれた展示施設で同文書をひろく市民に公開するチャンスと捉え、県立美術館学芸スタッフとの内々の相談を経て、2005年夏から準備を開始した。

それ以後、全34巻に及ぶ『阿蘇家文書』のどの部分を展示するかを検討して展覧会の骨格を仕立て、それを美術館の展示スペースに当てはめて展示プランを具体化するとともに、「図録」の内容を検討して文書・展示品の写真撮影と原稿執筆・編集を行うという一連の作業が、本学スタッフと美術館スタッフとの共同作業によって進められた。

さらに、本学と美術館のスタッフのほかにも地元マスコミや阿蘇市町村会が加わった「阿蘇家文書修復完成記念展実行委員会」が発足し、予算の枠組みや広報態勢が整備され、9月8日のテープカットにこぎつけた。

本展覧会は、『阿蘇家文書』全点のカラー写真が掲載された「図録」や、連続講演の内容（講演内容は記録冊子の形態で共有される予定である）とともに、大きな財産を生んだ。それは、中世古文書の展覧会に6,000名を超える人々が足を運んだという“事実”である。

古文書は和紙に墨で文字を書き込んだ書類であるから、美術館での展示に適しているとはいえない。

私たちは準備の最終段階まで、いったいどれだけの市民がこの展覧会に訪れるか、不安を抱いていた。

不安を吹き飛ばす結果が得られた背景には、キャプション等に工夫を凝らして理解しやすい展示を心がけたことや、テレビや新聞紙上での広報が比較的活発になされたことがあった。しかし最も重要なのは、この展覧会が「古文書」という文化資源に対する市民的関心の高さを証明したことであろう。

入館者の閲覧時間は比較的長く、展示ケースの前で古文書の内容を追い、また文書のたたずまいを眺め楽しむ多くの市民の姿を目にすることができた。

本学附属図書館には、『阿蘇家文書』と『永青文庫細川家文書』という、わが国を代表する中世・近世文書群が架蔵されている。

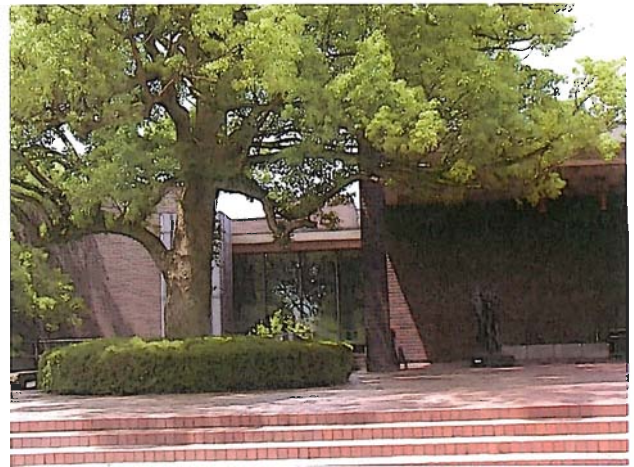
「東光原」45号にも記したように、このような文書群をそれらが歴史的に形成された現地でもって所蔵・管理している機関は、全国でもごく限られている。

本展覧会が証明したように、これら文書群への市民的関心は高く、それはみずからの地域の歴史を知りたいという知的欲求に支えられていることは明らかである。

本学及び附属図書館には、今後とも学外の様々な組織と共同して、これら文化資源に市民の眼差しを当てる機会を設けることが求められるであろう。

しかし忘れてならないのは、文書群の市民への学術的提供は、これら文書群についての本学スタッフによる日常的研究活動が継続されることによるのみ可能となるということである。

しかもそれは文書一通ごとの解釈と歴史情報の抽出、その蓄積といった、極めて基礎的で長期継続的な研究過程である。



これら地道な基礎研究が継続されうる条件・環境を整備し、基礎研究に日常的に従事するスタッフを適切に配置し処遇する仕組みの早急な確立が本学に求められている。

それなしには、文書群の所蔵・管理機関としての本学及び附属図書館が地域社会や市民から求められる役割を果たし続けてゆくことは、困難だと言わざるをえない。

以上のように、本展覧会が証明した古文書史料群への市民的関心の高さは、本学及び附属図書館の文書群管理機関としての積極的な活動の継続必要性と、それを実現するための大きな課題とをクローズアップさせたように思う。

いなば つぐはる

社会文化科学研究科助教授

### 表紙の言葉

今号の表紙写真は「阿蘇の文化遺産展」図録からの抜粋です。

『阿蘇家文書』には近世史料も含まれています。